



Topics1

6月に技術向上研修(防護柵)を開催しました!

◆防護柵研修について

鳥獣センターでは、鳥獣マイスター等を対象として、被害防止対策の適切な知識の普及や、技術定着等を目的に研修を実施しています。

今回は、鳥獣被害対策資材メーカーのタイガー株式会社九州支店の担当者を講師としてお招きし、約20名の方に参加いただきました。



◆座学

電気柵の基礎知識、設置上の注意点や安全な使用方法、ワイヤーメッシュ柵の設置上の注意点などについて勉強しました。

◆実習

電気柵とワイヤーメッシュ柵の設置実習を行いました。台風の影響により天候が不安定な中での実習でしたが、参加者が協力しながら実習を行う様子が見られました。



◆研修を終えて

本研修では、実際の現場で活用できる技術を学ぶことができました。今後も、柵を正しく設置し、維持管理を行うことの重要性について、普及を図っていきます。

Topics2

シカ被害対策の基礎知識

宮崎県のシカによる農林作物等の令和6年度被害額は約1億4千万円で、最も被害の大きい獣種となっております。シカの被害対策は、本県の重要な課題となっています。

◆生態と特徴

昼夜を問わず活動し、草食性で植物はほとんど食べることができるため、水稲、野菜、飼料作物など多くの種類の農作物を食害します。
2mの高さを跳び越えるような優れた跳躍力を持っていますが、防護柵は「もぐりこみ」による侵入がほとんどです。

◆被害対策

まずは、エサとなる放任果樹や廃棄農産物、生ゴミなどを除去し、農地や集落にシカが近づきにくい環境を整備しましょう。あわせて、侵入を防ぐための効果的な柵の設置や加害個体の捕獲を実施します。
このような総合的な対策に地域ぐるみで取り組むことが重要です。



飼料作物の食害

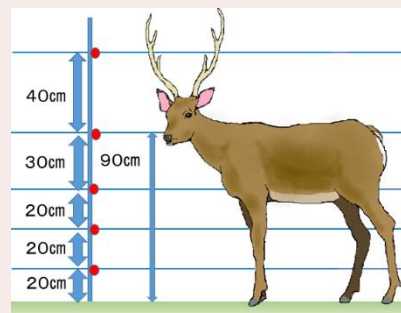


スギの皮剥

防護柵設置のポイント



ワイヤーメッシュ柵やネット柵は、地際部分に隙間を作らない。



電気柵は、柵線の高さが重要。5段張りで24時間通電させる。

～地域ぐるみで環境管理～

かつて里山は人が頻繁に入りし、維持・管理が行われてきました。

現在は、荒廃した里山が増えたことで、シカの生息に適した環境となっています。

地域で協力して草刈りなどを行い、見通しを良くする(緩衝帯を作る)ことが、獣害を防ぐ上で重要な対策として位置づけられています。

☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

西臼杵地域

①活動概要

令和6年度に五ヶ瀬町のかんしよ、令和7年度に日之影町のポップコーンほ場において、電気柵とアース機能付き防草シートの併用効果の検証を行いました。

②活動内容・成果

電気柵設置時の問題として、雑草等の接触による電圧低下があり、雑草対策として防草シートを利用した場合にはアース機能低下の問題もありました。

そこで、アース機能付き防草シートを利用することによる効果を検証しました。

アース機能付き防草シートは電線が織り込まれており、アースを確保しながら雑草を防ぐことで、漏電対策にもなります。

R6、R7とも、検証中の電圧は7千ボルト以上を維持しており、アース機能及び防草効果は実証できました。

しかし、R6の検証では、ほ場が猪に餌場として認識されていたことに加え、大雨でシート下の土が流出するなどしたため、シートが剥がされ侵入・食害を許してしまいました。

R7は、シート押さえ杭を増やすとともに、周辺の草刈り等の管理を定期的に行ったこともあり、猪等の侵入・食害を防ぐことができました。



シート設置完了



日之影町SAPが維持管理

③今後について

電気柵の機能発揮には防草対策が必須であり、アース機能付き防草シートは有効なアイテムではあります。安定的・持続的な効果を得るためにも、周辺環境の改善を含めた総合的な対策を行う必要があります。
※商品名「マイナスシート」

中部地域

中部地域では、令和7年度に宮崎市田野町堀口地区において、鳥獣被害対策の重点支援を行いました。同地区は、イノシシやサルによる農作物への被害に悩まされ、地区ぐるみの対策について地区自ら研修会を実施するなど、意欲的に対策に取り組まれています。

中部地域鳥獣被害対策特命チームとしては、この取組を後押しするため、まずは集落への獣類の侵入経路を特定する目的で監視カメラを設置しました。

同年9月には、宮崎市や関係機関と連携し、地区住民や他地区からの耕作者に広く呼びかけ、研修会を行いました。

室内研修では、監視カメラの映像や地図を使い、畑の周辺でイノシシが捕獲されている実態を共有することで、対策の必要性を再認識しました。

現地研修では、侵入防止柵の設置を計画中のほ場を歩き、地形や周辺環境に合わせた柵の設置ルートを検討しました。現場での確認を通じて、参加者と効果的な対策のイメージを共有することができました。これから数年をかけて柵の設置を行う予定です。

令和8年度も引き続き、被害防止対策の進捗と効果を地区住民と共有し、関係機関と連携して見守り、支援を続けていきます。



侵入防護柵ルート検討



多くの出席があった研修会



集落内の獣の痕跡